

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ずA3片面1枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは5MB以下としてください。

※事務局記入欄

【様式2】

No. D-90

部門名：校内研修プログラム開発・実践部門
 エントリー名：駒ヶ根市立東中学校 藤井篤徳
 平成30年度第4回中堅教員研修

活動名：みんなの声で学校デザイン SWOT分析から学校の強みを知る

解決すべき課題：全教職員の声を反映させたグランドデザインがあれば、学校はもっと活性化するはずだ！

本校では「グランドデザイン」を念頭に置いた教育活動が行われているだろうか？学校のミッションとビジョンが余すことなく記されているにもかかわらず…。内容や形式の問題ではない。グランドデザインに教職員の声が反映されていないことが要因だ。SWOT分析の手法を取り入れて、思いを語り合い学校の強みを顕在化させることを通して、みんなの声をグランドデザインに反映させて、教職員の主体的な学校づくりへの参画を促そうと考えた。

目標・方針：様々なスケールのSWOT分析を重ねて、グランドデザインの作成につなげる！（図1）

- 1 学年会で 研修講座「マネジメントの実践」の内容を伝達し、SWOT分析を校内研修で活用する。
- 2 学校評議員会で SWOT分析を行い、外部からの学校への期待や評価に関する情報を収集する。
- 3 年間反省の職員会で SWOT分析を行い、現状分析を踏まえたビジョンの共有化・具体化を図る。
- 4 学校運営委員会で SWOT分析の結果を共通理解し、次年度の学校運営方針の検討に生かす。

活動内容：SWOT分析のメリットを生かし、様々な視点から東中学校の強みを顕在化させていく！

- 1 学年会では、分析の対象を「学年生徒・職員」として、学年の強みを学年運営方針に反映させていく。
- 2 学校評議員会では、意見交換の内容を生かして、それぞれの立場から学校の強みを明らかにしていく。
- 3 職員会では、係反省の発表を踏まえて、全教職員が小グループに分かれて学校の強みを確認していく。
- 4 学校運営委員会では、全教職員の声をもとに、目指す生徒の姿や次年度の重点活動を検討していく。

活動の成果：東中学校の強みが見えてきた！みんなの声でグランドデザインができる！（写真、図2）

学校評議員の声 ・小規模校ならではの対応 ・生徒と先生の調和的な関係 ・生徒同士の強いつながり ・生徒会や部活動の活躍 ・学校に協力的な地域住民 ・地域行事への積極的な参加 ・盛んな公民館活動 ・豊かな自然環境 等	教職員の声 ・全校生徒の顔と名前が一致 ・職員室で情報交換(雑談) ・生徒の状況に応じた対応 ・活発な生徒会と部活動 ・上級生のリーダーシップ ・活発な縦割り班活動 ・地域のあたたかい雰囲気 ・学校行事への協力 等	見えてきた東中学校の強み ☆生徒同士、職員同士、生徒と職員のつながり ☆居心地の良さと安心感 ☆個性が発揮できる環境 ☆特色ある伝統行事(山林作業、大根づくり) ☆学校と地域の良好な関係 ふるさとと共存する学校
--	--	--

アピールポイント（アイデアや工夫）：みんなで楽しく、手軽に、笑顔で学校について語る事ができる！

- 事務職員や養護教諭、栄養教諭を含めた全教職員で楽しく学校について語る事ができます！
 →立場の違いを超えて学校のミッションやビジョンを再確認することにつながり、同僚性が高まりました。
- どの学校にもある諸会合に無理なく手軽に取り入れることができます！しかも、みんな笑顔で語ります！
 →分析を語り合い、聞き合う中で熱気が生まれ、形式的・表面的になりがちな会が活性化しました。
- 「自分が学校をつくる」という自覚が高まり、ミッションを意識して全教職員の主体的に取り組みます！
 →仲間と共鳴する喜びを感じることで教職員のモチベーションが高まり、学校が元気になりました。

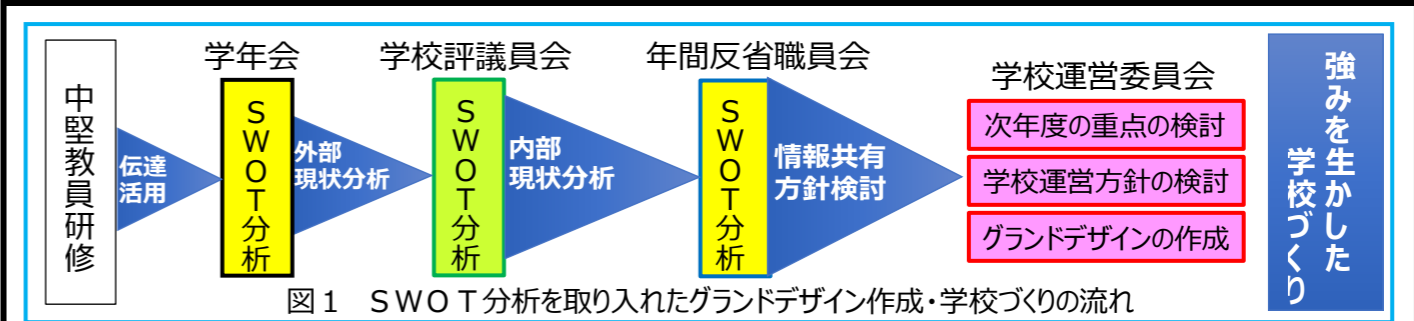


図1 SWOT分析を取り入れたグランドデザイン作成・学校づくりの流れ



1 少人数 距離感 伝統行事	内部環境の強み(S) 教師と生徒の距離が近く、コミュニケーションが取りやすい。 山林作業、大根作業など他校にない伝統行事がある。 先生方が職員室に集まりやすい環境となっている。 3年生になると、ほぼ全員がリーダーの経験ができる。	内部環境の弱み(W) 狭い地域であるためか、気持ちを解放できない生徒がいる。 人数が少ないため、人間関係の作り方が苦勞することがある。 教職員数が少なく、個々の負担が大きいので、多忙である。 「誰かがやってくれるだろう」と前に出る生徒が少ない。	2 少人数 固定化 消極的
	外部環境の機会(O) 静かな高台にある学校、自然環境が豊かで学びやすい環境。 しめ縄やふるさと学習で手助けして下さる地域の方が多い。 生徒が地域行事に参加し、地域の方と交わる機会が多い。 公民館活動や地域行事が盛んで、地域の連携が強い。	外部環境の脅威(T) 駅や商業施設などが遠く、外部と気軽につながりにくい環境。 教育活動に対応した教室やICT機器などの数が足りない。 家庭や地域が生徒・保護者の情報を互いに知り過ぎている。 3つの小学校区の色があり、共有が難しい面がある。	
3 地域社会 自然環境 地域交流			立地 施設設備 地域差

図2 年間反省職員会での教職員によるSWOT分析（抜粋）

【考察】※学校運営委員会での話し合い

- 教職員によるSWOT分析から
 - 1 小規模であることを肯定的に捉え、全校生徒の特性を把握して指導・支援できることを強みと考えている教職員が多く、生徒に活躍の場を与えたいと願っている。
 - 2 生徒数と教職員数の少なさは、強みにも弱みにも作用する。「小規模だから良い」という考えだけでは、学校の強みにはならない。意図的な戦略が必要となる。
- 「学力」や「授業」を視点とした分析が極端に少ない。学校の強みとかかわらせれば、学力向上や授業改善への教職員の意識を高めることができるのではないか。
- 学校評議員と教職員によるSWOT分析から
 - 3 地域と学校の連携は、学校の強みとなっている。学校評議員(公民館長、民生委員)からは、連携の具体案が提示された。更なる連携強化の可能性を探りたい。

みんなの声でできた、グランドデザイン

わたしたちのミッション ～東中学校の存在意義～
ふるさと駒ヶ根を愛し、未来を創る生徒を育てる
 わたしたちのビジョンと戦略 ～目指す学校像と手だて～
日本一の東中学校をつくろう！
 ☆「わかる」「できる」授業で学力向上
 ・「僕はこう思う、あなたは？」学び合いのある授業
 ・「だったらこうしてみたら？」個の願いに応じた支援
 ☆生徒会・部活動で人間力を高める
 ・「一人一役」小さな努力を重ねて夢を形にする生徒会
 ・「チーム東中」チャンスの神様をつかむ部活動
 ☆地域と共にふるさとを未来を考える
 ・「ふるさとへ心を」地域の方と共につくる伝統行事
 ・「軌跡を辿って未来を描く」ふるさと学習の発展・拡充